## 第73番 出釋迦寺

●香川県善通寺市吉原町109 ☎0877-63-0073





#### 第74番 甲山寺

- ●香川県善通寺市弘田町1765-☎0877-63-0074
- 電坊/なし



# 沿線の見どころ



#### 我拝師山(がはいしさん)

標高481mの我拝師山。弘法大師が身を投げ、西行法師も歩いたといわれ、道沿いには石仏が点在している。奥の院禅定への山道は距離も長く、その斜度は相当なもの。整備されていない所もあるので、登山は体力と時間に余裕のある人におすすめ。写真は奥の院禅定から見た捨身ヶ嶽の眺め。

**所**香川県善通寺市吉原町 ☎0877·63·0073(出釈迦寺)



# 沿線の見どころ



#### 柳の清水

出釋迦寺境内から捨身ヶ嶽禅定へ続く山道の途中にある湧き水。日照りでも涸れることがないとか。昔、病に倒れた堺の庄屋の娘が、お遍路さんの持っていた「柳の清水」を飲むことにより完治したという伝説がある。今でも、この水で薬を飲むと病気が治るといわれており、遠くからも水を汲みに来る人が後を絶たない。

所香川県善通寺市吉原町○ 0877・63・0073(出釈迦寺)



### 境内の見どころ



#### 奥之院遥拝所

我拝師山の頂上には大師が身を投げた岩場がある奥之院、捨身ヶ嶽禅定(しゃしんがたけぜんじょう)が建っている。境内から歩いて約40分もかかるため、登れない人は本堂横の階段を少し上がったところにある奥之院遥拝所を参拝する。ここで念仏を唱えれば、登ったのと同じご利益が得られるそう。





# 日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



第73番

# 我拜師山 出釋迦寺

がはいしざん ぐもんじいん しゅっしゃかじ

# 弘法大師が仏道入りを決意した寺

#### 歴史•全体像



幼少の頃、弘法大師は八葉蓮華の中に座って諸仏と語らう夢を頻繁に見ていた。そして7歳の時、仏道に入って教世の大誓願を立てようと倭斬濃山(わしのやま)の山頂に立った大師は、「仏門に入って多くの人を救いたい。釈迦如来よ、この願いが叶うなら現れたまえ。叶わぬならば、一命を捨ててこの身を諸仏に捧げる」と願をかけ、身を投げた。すると、釈迦如来と天女が現れ、落下する大師を抱きをと、釈迦如来と天女が現れ、落下する大師を抱きに入事と大師は、後に釈迦如来の像を刻み、これを本尊として出釋迦寺を造った。倭斬濃山は、この時に我拝師山という名に改められ、頂上に奥之院が建てられたという。

# 境内



標高481mの我拝師山を背に建つ出釋 迦寺。駐車場から山門の方を見上げると、全 長6.5mもの高さがある修行大師像が立っ ている。

石段を上り、平成20年(2008)春に改修されて新しくなった山門をくぐると、こぢんまりとした境内に本堂と大師堂が軒続きで並ぶ。

大師堂に向かって右側には、求聞持大師の像が鎮座していて、弘法大師が虚空蔵菩薩の真言を百万回唱え、求聞持の法を修行する姿を表している。大師像は各地にいくつもあるが、この姿をした大師像があるのは出釋迦寺のみである。

御詠歌/迷いぬる六道衆生救わんと尊き山にいずる釋迦寺 本尊/釈迦如来

真言/のうまく さんまんだ ぼだな ん ばく

宗派/真言宗御室派 開基/弘法大師









日本遺産

